



# Library Liébana

## 2022年9月度展示内容のお知らせ

### 【今月のベアトゥス写本】

黙示録には世界地図の話は出てきませんが、残存するベアトゥの黙示録註解書の22冊のうち14冊に「世界地図」が描かれています。今月は5冊のベアトゥス写本から中世のキリスト教世界観に基づく世界地図を紹介します。



(モーガン写本 940-45年頃)



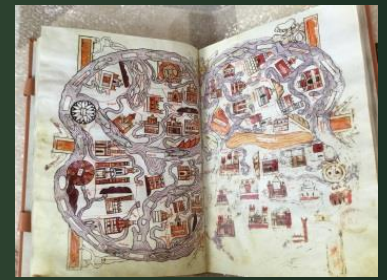
(サンスヴェール写本 11世紀後半)



(バルカト写本 970年)



(オスマ写本 1086年)



(ナバーラ写本 12世紀後半)

### 【中世の写本：プトレマイオス世界図】

150年頃に著された  
プトレマイオスの「地理学」を  
もとに15世紀前半に作ら  
れた世界地図



## ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

9月の開館日(予定)  
日・水・木・金曜日  
(HPで確認下さい)

愛知県豊田市西町5丁目5  
VITS豊田タウン B1F  
毎週日曜日 10:30~17:30  
H.P.

ファクシミリ本とは：  
オリジナル写本の大きさや色を再現。  
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に  
再現した複製本も多数展示しています。



							9月
日	月	火	水	木	金	土	
28	29	30	31	1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	1	

2日と22日は午後から  
23日(金)はお休み

## ベアトゥスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトゥス(ベアト Beato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトゥス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22 写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書き、製本様式や装丁などをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

### 今月のベアトゥス写本の挿絵 【世界地図】

黙示録を含めた聖書には出てこない「世界地図」がなぜ描かれているのかよくわかりませんが、アローヨ写本の解説によると、

「世界地図」は使徒たちが伝道し、教会を創設すべき「地上の全世界」を示す。「イングランド」などの島や「太陽」「太洋」の擬人象のほか、セイレンや船、魚を含む大海が囲む円形図として表され、内部が、「地中海」(中央縦及び横水平に区切る)によって、アジア(左上の一体)、中央にカッパドキアの街、ヨーロッパ(左下、大河により細分化された中にローマやトレドToletumが認められる)、アフリカ(右側)、バビロンBabiloniaの名がある)に分けられ、裸体のアダムとエヴァ(その脇に生命の木にまわりつく蛇)がいる「失われた楽園」も描かれている。古来のOrbis TerrarumのOとTを組み合わせた図式的表現を踏襲した世界図である。

(アローヨ写本挿絵の記述 安發和彰 より)

完本22写本のうち14写本に世界地図が描かれています。

またこのような世界地図をOT図(またはTO図)と呼びます。

### 【モーガン写本】

マドリード写本と並んで一番初期の10世紀中頃(940-945?)に制作された完本写本。

挿絵に粹取りをして、画面の地を幾つかの帯状色面で抽象的に処理する手法は、輝くばかりの色彩効果や破綻なく図像をまとめ上げる構図上の機能などにおいて、以降の写本の手本になったといえる写本。

### 【ヴァルカヴァート写本】

970年6月から9月にかけて、レオン王国(スペイン北部)のバルカバート修道院にて製作された。写字・挿画はオベーコ。

モーガン写本と同系統の写本。

### 今月中世彩色写本 【プトレマイオス世界図】

プトレマイオス自身が作成した地図は失われたが、150年頃に著された「地理学」に当時の様々な場所(約8000か所)の座標情報が記されており、「地理学」が1300年頃に再評価された際、その座標情報を使い、地図製作者はプトレマイオスの世界図を再構成することができた。

展示の写本は、1406年ヤコボ・アンジェロのラテン語訳になるプトレマイオスの「地理学」の数多くの版の中で、地図的表現および描写の精密さという点で、最も丹念に制作されたものの1つで、15世紀前半にドイツ又はイタリアで制作されたと考えられている。

### 【サン・スヴェール写本】

ベアトゥス写本の中で唯一ピレネー山脈を越えたフランスの修道院で11世紀後半に制作された写本。

モサラベ様式の中にロマネスク様式がまざった挿絵が見られる。例えば新エルサレム(f. 207-f. 208)では建物全体はモサラベ写本のように正方形で構成されていますが、アーチは馬蹄形ではなく半円形のアーチが描かれています。

### 【オスーマ写本】

ファクンドス写本より少し遅れて1086年に完成した写本で、すでにロマネスク様式が入りつつあったのがさらに進んでいる挿絵の様式です。(建築の馬蹄型アーチがモサラベ様式の痕跡として残っている)

### 【ナバーラ写本】

12世紀後半にナバーラ地方のラリオハ地方のアストルガで作られたと考えられています。

挿絵の一番の特徴は、なんといっても地に使われている紫色です。

ロマネスク様式を色濃く残しています。